

2020年度

# 自己点検・評価報告書

2021年3月

学校法人 文理学園

日本文理大学医療専門学校

診療放射線学科

## 目次

I	学校の現況	1
II	評価の基本方針	2
III	重点目標	2
IV	評価項目の達成及び取組状況	3
	1. 教育理念・教育目標	3
	2. 学校運営	4
	3. 教育活動	5
	4. 学修成果	6
	5. 学生支援	7
	6. 教育環境	8
	7. 学生の受入れ募集	9
	8. 財務	10
	9. 法令等の遵守	11
	10. 社会貢献・地域貢献	12
V	総合評価	13

## I 学校の現況

### (1) 施設の概要

学校名: 学校法人 文理学園 日本文理大学医療専門学校

所在地: 大分県大分市一木1727

施設長: 校長 豊住 昭和

### (2) 沿革

1995年(平成7年)NBUメディカルカレッジ 診療放射線学科設置

2004年(平成16年)日本文理大学医療専門学校に改称

2005年(平成17年)臨床検査学科 臨床工学科設置

### (3) 学科の構成

課程名	学科名	修業年限	入学定員	総定員	昼夜別
医療専門課程	診療放射線学科	3年	80名	240名	昼間
	臨床検査学科	3年	40名	120名	昼間
	臨床工学科	3年	40名	120名	昼間

### (4) 学生数

学科名	1学年	2学年	3学年	全学年
診療放射線学科	92	69	53	214
臨床検査学科	39	30	32	101
臨床工学科	14	17	19	50

### (5) 教職員数

	専任	非常勤
診療放射線学科	10	6
臨床検査学科	6	6
臨床工学科	7	6
職員数	23	18

## II 評価の基本方針

- (1) 自己点検・評価を行うことにより教育研究活動の現状を把握し、諸機能を活性化させ、その教育水準の維持向上に努めることを目的とする。
- (2) 自己点検・評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り実施するものとする。
- (3) 判定基準
  - 4…適切 適切にされており、特に解決すべき課題はない
  - 3…ほぼ適切 現時点で早急に解決すべき課題はないが、状況把握が必要
  - 2…やや不適切 状況把握を行い、解決に向けた取組みが必要
  - 1…不適切 早急に解決すべき課題である

## III 重点目標

### 1. 学校の教育理念と目標

- (1) 幅広い教養、奉仕の心、生命の尊厳の認識を持った人間的資質を磨き、社会が医療人に求めているものを的確に把握し対応できる能力を習得させる。
- (2) 医療従事者として、明確な目標を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続的に実施できるような自分を律する人間を育成する。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 国家試験合格率100%を目指した教育の実践
- (2) 定員充足率100%を目指した学生募集の展開
- (3) 学生の就職活動の早期化および、施設の開拓

### 3. 学科の目標

- (1) 学年ごとに目標を据えることで学習意欲の向上を図り、留年や退学をする学生数を減らす。
- (2) 学生の到達度に合わせた国家試験対策を実施することで診療放射線技師や放射線取扱主任者資格の合格率を高める。

#### IV 評価項目の達成及び取組状況

##### 1. 教育理念・教育目標

評価項目		評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4…適切
2	学校における職業教育の特色を打ち出しているか	3…ほぼ適切
3	関連業界のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3…ほぼ適切
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3…ほぼ適切
5	学科の教育目標、育成人材像は、関連業界のニーズに向けて方向づけられているか	3…ほぼ適切

① 課題
4 学校の理念・目的・育成人材像・特色はパンフレットやホームページにより公表されているが、どの程度周知がなされているかが不明である。
② 今後の改善方策
4 パンフレットやホームページ以外の方法により学校の理念・目的・育成人材像・特色を周知できる場を検討する。
③ 特記事項
5 職能団体が求める4年制大学教育に向けた検討が始まった。

## 2. 学校運営

評価項目		評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3…ほぼ適切
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3…ほぼ適切
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3…ほぼ適切
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	3…ほぼ適切
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3…ほぼ適切
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3…ほぼ適切
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3…ほぼ適切
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3…ほぼ適切

① 課題
7 教育活動等に関する情報公開の場がパンフレットやホームページであり限定的である。 8 情報システムの利用が限定的で非効率的である。
② 今後の改善方策
7 パンフレットやホームページ以外の方法により情報公開できる場を検討する。 8 情報システムが備えている機能を活用し更なる効率化を図る。
③ 特記事項
なし

### 3. 教育活動

評価項目		評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3…ほぼ適切
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3…ほぼ適切
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3…ほぼ適切
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3…ほぼ適切
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3…ほぼ適切
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3…ほぼ適切
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4…適切
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4…適切
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3…ほぼ適切
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3…ほぼ適切
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3…ほぼ適切
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3…ほぼ適切
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3…ほぼ適切
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3…ほぼ適切

① 課題
3 令和4年度のカリキュラムの改定に向け、科目および単位数の見直しが必要。 13 コロナ禍により、計画していた研修の多くが中止となった。
② 今後の改善方策
3 新カリキュラムの改定通知に沿って、教育課程を検討する。 13 Web開催の研修等に積極的に参加する。
③ 特記事項
なし

#### 4. 学修成果

評価項目		評価
1	就職率の向上が図られているか	3…ほぼ適切
2	資格取得率の向上が図られているか	3…ほぼ適切
3	退学率の低減が図られているか	3…ほぼ適切
4	進級率の向上(留年率の低減)が図られているか	3…ほぼ適切
5	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3…ほぼ適切
6	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3…ほぼ適切

① 課題
<p>3 目的意識の消失により、1学年に多数の退学者が生じた。</p> <p>5 卒業生・在校生がどのように医療で貢献しているかを把握する体制が整えられていない。</p>
② 今後の改善方策
<p>3 目的意識や職業意識を高めるため、病院見学等の計画を検討する。</p> <p>5 学会や校友会組織主催の地域交流会などで卒業生との交流の中で把握を行う。</p>
③ 特記事項
<p>2 今年度より、ITパスポートの資格取得支援を開始した。</p>



## 5. 学生支援

評価項目		評価
1	進路(就職・進学)に関する支援体制は整備されているか	3…ほぼ適切
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4…適切
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4…適切
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3…ほぼ適切
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3…ほぼ適切
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3…ほぼ適切
7	保護者と適切に連携しているか	4…適切
8	卒業生への支援体制はあるか	3…ほぼ適切
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3…ほぼ適切
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3…ほぼ適切

① 課題
<p>1 進路(就職・進学)に関する支援体制は整っているが、今年度は内定に結びつかないケースが多くみられた。</p> <p>6 面談を通して生活環境を把握していくが、改善されているかの把握をすることは難しい。</p> <p>9 社会人としての自覚をもたせるために、学外からの講師を派遣しているが、今年度はコロナ禍の影響もあり中止を余儀なくされた回もあった。</p>
② 今後の改善方策
<p>1 早期に内定を獲得できるように、学力の向上と面接指導の強化を図る。</p> <p>6 保護者との連携により、改善されていることの把握を行っていく。</p>
③ 特記事項
<p>3 昨年に引き続き、高等教育の修学支援制度の対象校となった。</p> <p>9 webによる開催をすることで対応した。</p>

## 6. 教育環境

評価項目		評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3…ほぼ適切
2	IT教育・遠隔授業等の学習環境が整備されているか。	3…ほぼ適切
3	学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	3…ほぼ適切
4	感染症に対する危機管理体制が整えられているか。	3…ほぼ適切
5	防災に対する体制は整備されているか	3…ほぼ適切

① 課題	
1 施設・設備の老朽化に対する対応が不十分である。 2 遠隔授業に対しての設備は整えたが、遠隔ツールを上手く活用するように統一されていない。	
② 今後の改善方策	
1 老朽化した施設・設備の更新を検討する。 2 遠隔ツールを積極的に活用することを呼びかける必要がある。	
③ 特記事項	
1 MRIを更新した。 2 ICT設備を導入し、遠隔授業を可能とした。 4 感染防止マニュアルを作成した。	

7. 学生の受入れ募集

評価項目		評価
1	学生の募集活動は、適正に行われているか	3…ほぼ適切
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3…ほぼ適切
3	学納金は妥当なものとなっているか	4…適切

① 課題
1 多様な入学生を確保するために多数回の入試を実施することから、入学定員の適正化が図れていない。
② 今後の改善方策
2 入学辞退者の把握につとめ、入学定員の適正化を図る。
③ 特記事項
なし

## 8. 財務

評価項目		評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4…適切
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3…ほぼ適切
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4…適切
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3…ほぼ適切

① 課題	
1 学生数の逡減に対する対応策が必要。	
② 今後の改善方策	
1 学生数の確保を図り、継続して中長期的な財務基盤の安定に努めていく。	
③ 特記事項	
2 予算の編成及び執行は毎年適正に実施している。 3 会計監査は、公認会計士及び監事により適正に行われている。 4 学園の財務情報を毎年ホームページに公開している。	

## 9. 法令等の遵守

評価項目		評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4…適切
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4…適切
3	自己点検・評価の実施と問題点の改善を行っているか	3…ほぼ適切
4	自己点検・評価結果を公表しているか	4…適切

① 課題
3 自己点検・評価の結果の中に、継続的に改善できていないところがある。
② 今後の改善方策
3 自己評価におけるPDCAサイクルを機能させ、改善を図る。
③ 特記事項
なし

## 10. 社会貢献・地域貢献

評価項目		評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3…ほぼ適切
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3…ほぼ適切
3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3…ほぼ適切

① 課題
1、2 コロナ禍により、社会貢献・地域貢献・ボランティア活動の場を失われた。 3 地域社会における生涯を通じた学習機会といった意味で公開講座を行う場が組まれていない。
② 今後の改善方策
1、2 コロナ禍にあっても可能な社会貢献・地域貢献・ボランティア活動の場を検討する。 3 職能団体と連携を図ることで地域社会へ貢献するような公開講座を開催する。
③ 特記事項
なし

## V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

### 【学校評価の具体的な目標】

学校が、実践的な職業教育等を行うため、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について自己評価を実施・公表することにより、学校としての組織的・継続的な改善を図ることを目的とする。また、学校関係者評価において、自己評価が適切に実施され学校運営の改善につながっているかを評価していくことでPDCAサイクルを機能させる。

### 【総合的な評価】

新型コロナウイルス感染症の影響により、学外実習や学校行事の変更や中止を余儀なくされた。そのような状況の中、進級や卒業の要件を満たすための講義(実験・実習含む)や定期試験のすべてを実施できたことは評価できる。

しかしながら、すべての項目において、「適切」の評価を得るに至っていない。前年度(2019年度)の自己点検・評価報告書にある課題が解決できておらず、引き続き改善を図らないといけない項目もあり、適切にPDCAサイクルを機能させ、各項目にあげた改善方策を実施し、運営の改善・教育の質向上を図る必要がある。学校評価委員会ならびに教育課程編成委員会の意見を取り入れ、健全な学校運営に努めることが重要である。